

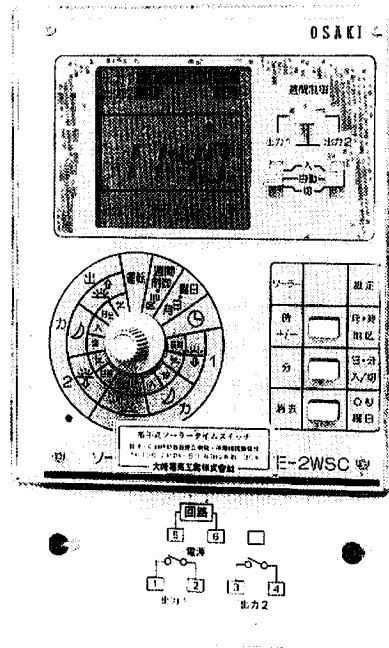
取扱説明書

電子式

ソーラータイムスイッチ

TYE-2WSC

(日没・日出制御+週間制御, 2回路タイプ)



このたびは大崎電子式ソーラータイムスイッチをお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。
本装置を正しく使っていただくために、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。また、
お読みになったあとは、必ず保存していただきますよう、お願い申し上げます。



大崎電気工業株式会社

目次

1. 安全上のご注意	1
2. 各部の名称と機能	3
3. 取付方法	4
3-1 表面取付の場合	4
3-2 埋込取付の場合	4
4. 接続	5
4-1 接続手順	5
4-2 端子配置図	5
4-3 適用電線と圧着端子	6
5. 接続例	7
6. 制御機能と設定について	8
6-1 ソーラー制御機能	8
6-2 定時制御機能	8
6-3 日没・日出制御調整時間の設定機能	9
6-4 週間制御機能	10
6-5 手動制御機能	10
6-6 設定時の制御と自動復帰機能	10
7. 設定	11
7-1 設定方法	11
7-2 使用地区と週間制御の設定	12
7-3 日付の設定	13
7-4 時刻の設定	13
7-5 日没制御<入>時刻の確認	14
7-6 日没制御調整時間の設定	14
7-7 夜間定時<切>時刻の設定	15
7-8 早朝定時<入>時刻の設定	15
7-9 日出制御<切>時刻の確認	16
7-10 日出制御調整時間の設定	17
7-11 週間制御の選択	18
7-12 手動操作スイッチ	18
7-13 リセットスイッチ	18
8. 外形寸法図	19
9. 停電補償について	19
10. 構成	19
11. 仕様	20
12. 保証期間	20




1 安全上のご注意

- ・ご使用になる前この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- ・ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ・表示とその意味は次のようになっています。

表 示	表 示 の 意 味
 危険	誤った取扱を行った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合を示します。
 注意	誤った取扱を行った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の障害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および、物的損害のみ発生が想定される場合を示します。

物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を意味します。

図記号の例

図 記 号	表 示 の 意 味
	◇は危険を示します。 具体的な内容は◇の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
	⊘は禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な内容は⊘の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は「分解禁止」を示します。
	●は強制（必ずすること）を示します。 具体的な内容は●の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は「一般の義務的行為」を示します。

■施工上の注意事項

危険

- ・電気工事は有資格者（電気工事士）が行うこと



専門業者

工事に不備があると火災や感電などの事故の原因となります。

- ・必ず保護装置を設置すること



保護装置設置

取り付け電気工事は「電気設備に関する技術基準」、「労働安全衛生規則」などの関連法規に従って、電源側に保護装置（ブレーカ等）を設置してください。
工事に不備があると火災や感電などの事故の原因となります。

- ・配線工事は保護装置を「切」にして行うこと



感電注意

感電などの事故の原因となります。

- ・配線工事を行う時には必ず取扱説明書を読んで、それに従うこと



取扱説明書確認

感電などの事故や負荷機器の物的損害などの原因となります。

- ・定格以上の負荷および三相負荷を制御する場合には、電磁開閉器等を併用すること



施工注意

火災などの事故や本体の故障の原因となります。

- ・端子ねじは確実に締め付けること
ゆるみがあると火災の原因になります。

■使用上の注意事項

⚠ 危険

- ・設定などで保護装置を「入」にする場合には、特に負荷側の安全を確認すること



感電注意

強い衝撃などで負荷側出力が「ON（入）」になっている可能性があります。
感電などの事故の原因となります。

- ・端子カバーは必ず取り付けること



感電注意

端子や電線に直接接触して、感電などの事故の原因となります。

- ・導電物（金属棒、クリップ、シャープペンの芯など）の先でリセットボタンを押さないこと



道具確認

感電、火災などの事故や本体の故障の原因となります。

⊘ 禁止

- ・次のような場所での使用をしないこと

- ・周囲温度が -10°C ～ $+50^{\circ}\text{C}$ の範囲を越える所
- ・周囲湿度が85%を越える所や、85%以下でも結露する所
- ・水がかかったり、直射日光（紫外線）が当たる所
- ・振動や衝撃の多い所
誤動作、寿命低下、事故、故障の原因となります。

- ・ノイズやサージを発生する機械のある所
- ・強電界、強磁界の発生する所
- ・油、油煙のかかる所
- ・埃（特に鉄粉やカーボンなどの導電性の粉塵）やアンモニア、亜硫酸ガスなどの腐食性ガスの多い所

■保守・点検排気上の注意事項

⚠ 注意

- ・保守・点検は電気工事士の資格を有する者が行うこと



点検確認

保守・点検は定期的に（年1回程度）行ってください。
端子の締め付けが緩んでいたりすると火災などの事故の原因となります

- ・分解、改造やご自身での修理は行わないこと



分解禁止

感電、火災などの事故や本体の故障の原因となります。

- ・異常が起きた時には電源側の保護装置（ブレーカ等）を切り、電気工事士の資格を有する者に連絡すること



電源を切れ

そのまま使用すると火災や負荷機器への悪影響の原因となります。

- ・廃棄する場合は、産業廃棄物として処分すること



注意

3 取付方法



感電注意

・本体の取付、取外しは配線されていない状態で行ってください。

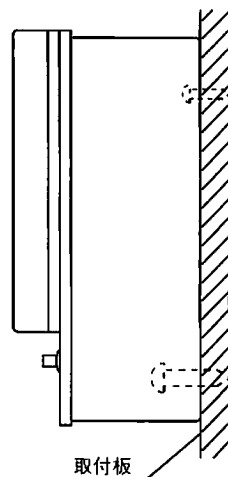
配線された状態で取付または取外す場合には必ず保護装置を「切」にして行ってください。

3-1 表面取付の場合

・上側1か所と下側2か所（前面端子カバー内部）を付属の木ねじを使って壁面にしっかりと固定してください。

（上側に短い方の木ねじをご使用ください。）

※表面取付で使用するときは、専用ボックスに入れてご使用ください。



3-2 埋込取付の場合



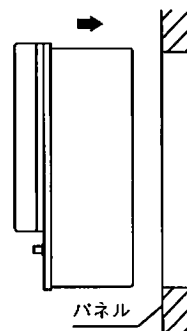
施工注意

・取付には付属の取付金具および取付ねじ（サムスクリュー）以外は使用しないでください。（取付パネルの板厚は10mmまで可能です。）

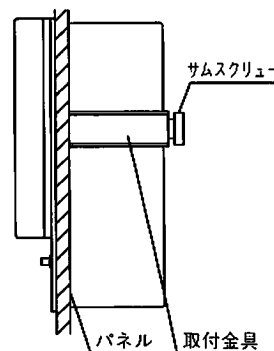
長いねじを使用すると本体内部を破損することがあり、故障の原因となります。

取付ねじは工具を使わず必ず手で締付けてください。

①本体に端子カバーを取付けた状態で、パネル前面から挿入します。



②付属の取付金具と取付ねじ（サムスクリュー）でパネル裏側から固定してください。



4 接 続



感電注意

- ・配線工事は保護装置（ブレーカ等）を「切」にして行うこと。
- ・接続終了後は端子カバーを必ず取り付けること。



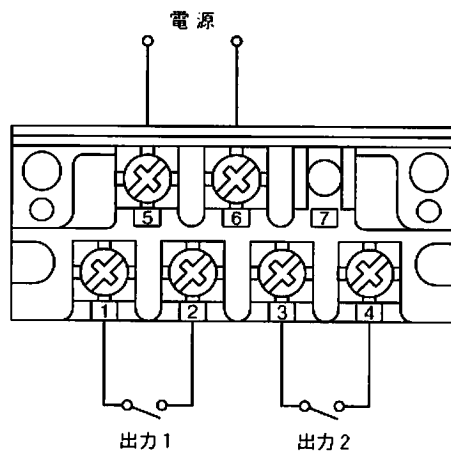
注意

- ・端子ねじは確実に締め付けること。
適正締め付けトルク [1.5～1.8 N・m (約17kgf・cm)]
- ・保護装置を「入」にする前に結線に誤りがないことを確認すること。
火災などの事故や本体の事故の原因となります。

4-1 接続手順

- ①保護装置（ブレーカ等）を「切」にし、電源が「OFF」になっていることを確認してください。
- ②電源線を電源端子（端子番号「5」および「6」）に接続してください。
- ③負荷端子番号「1」と「2」および「3」と「4」の出力状態が導通がないことをテスター等で確認してください。
もしどちらか一方でも導通があった場合には数秒間、保護装置（ブレーカ等）を「入」にした後に「切」にし、再度確認してください。
- ④「5. 接続例」に従って負荷機器を負荷端子（端子番号「1」, 「2」および「3」, 「4」）に接続してください。
- ⑤全ての接続が終了した後、接続に誤りがないか、また、端子ねじが確実に締めつけられているかを確認してください。
- ⑥端子カバーを取り付けてください。
- ⑦保護装置（ブレーカ等）を「入」にし、負荷機器の動作を確認してください。

4-2 端子配置図



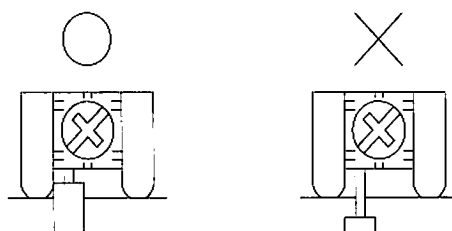
4-3 適用電線と圧着端子

①端子への接続可能電線サイズと本数は次のとおりです。

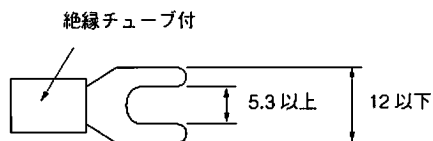
600Vビニル 絶縁電線	単線の場合	$\phi 1.2 \sim \phi 2.0$	2本まで
	ヨリ線の場合	$1.25\text{mm}^2 \sim 8\text{mm}^2$	2本まで

注) ヨリ線の場合は絶縁チューブ付圧着端子をご使用ください。

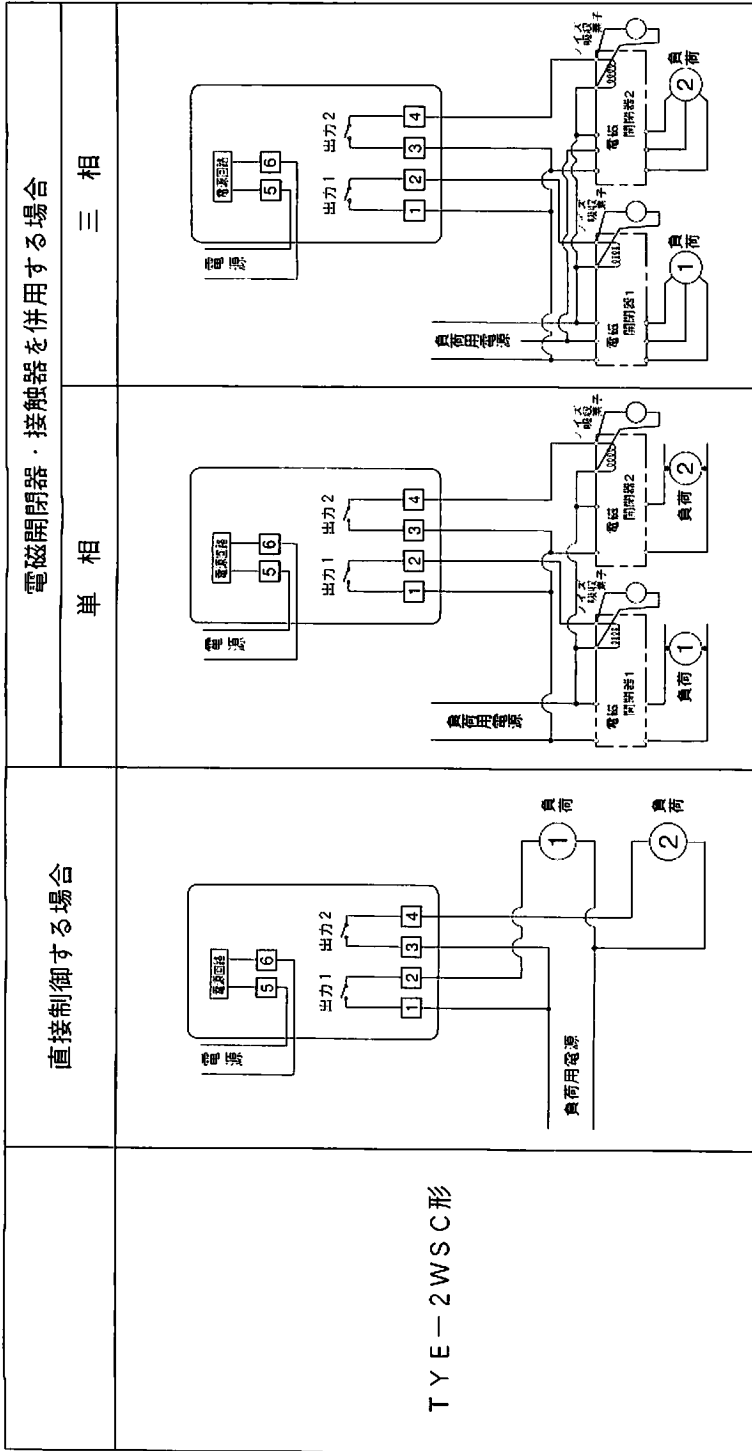
②電線を直接締め付ける場合は皮むき部分(8mm程)が端子部から出ないようにしてください。



③絶縁チューブ付圧着端子を使用する場合は下図の形状のものをご使用ください。
この形状以外のものを使用すると端子部の破損等の恐れがあります。



圧着端子部はご使用になる電線のサイズ
に合わせてお選びください。



危険

- 電源側には関連法規に従って、漏電遮断器、配線遮断器、ヒューズなどを設置してください。
- 直流負荷の場合は接点保護のため直接制御しないで交流電源側で制御することをお勧めします。
- 制御負荷の容量がタイムスイッチの容量を超える場合は三相負荷の場合や三相負荷の容量は必ず電磁開閉器等を併用してください。(直接制御できる負荷の容量は、負荷の種類によって異なりますのでご注意ください。)
- 電磁開閉器は投入時の励磁電流が誘導負荷容量にノイズ吸収素子(R+C)を選定してください。
- 電磁開閉器は日本通信工業(株)製 CR2B104C121 (125V定格) CR2E104C121 (250V定格) 当社推奨品； 岡谷電機産業(株)製 S-1201 (150V定格) XE-1201 (250V定格)

6 制御機能と設定について

このタイムスイッチはソーラー制御で動作する出力回路が独立して2回路あります。
設定の際には、使用される制御機能と設定を確認してください。

6-1 ソーラー制御機能

- 日没に負荷を<入>にし、日出に負荷を<切>にする制御が基本パターンで、日本を10の地区に分けて、それぞれの地区における年間の日没、日出時刻をマイコンで記憶していますので、使用地区と月日を初めに設定するだけで暦に合せて日没、日出時刻を自動修正します。

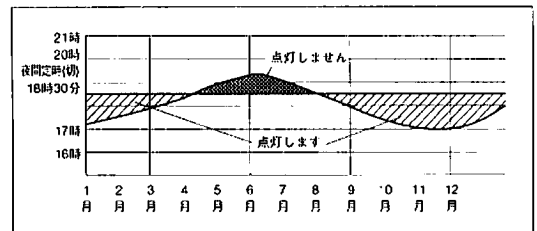
6-2 定時制御機能



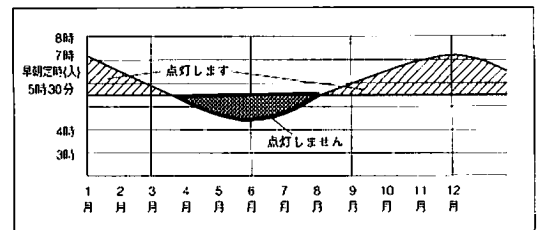
設定注意

日没<入>時刻が夜間定時<切>時刻より遅くなった場合には日没<入>は無効となり、日没<切>時刻が早朝定時<入>時刻より早くなった場合には早朝定時<入>は無効となります。

例1. 夜間定時<切>時刻を
18時30分に設定した場合



例2. 早朝定時<入>時刻を
5時30分に設定した場合




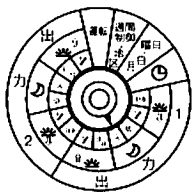


※図中の日没、日出曲線は例示であり、実際とは異なります。

- 夜間定時<切>、早朝定期<入>の定時制御機能があり、ソーラー制御機能との組み合わせにより次の4つの制御パターンが設定できます。

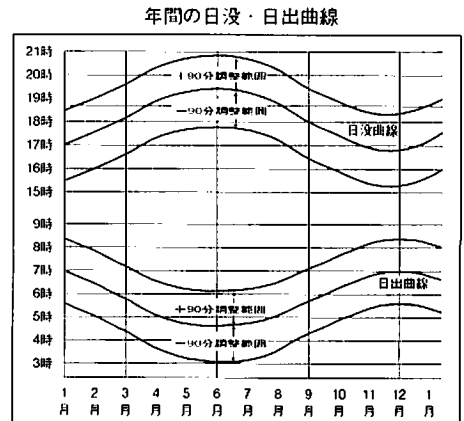
動作	動作状態	制御パターン	設定方法
動作1	日没<入>~日出<切>	日没 入 日出 切	夜間定時<切>、早朝定時<入>の設定は不要
動作2	日没<入>~夜間定時<切> 早朝定時<入>~日出<切>	日没 入 夜間定時 切 早朝定時 入 日出 切	夜間定時<切>、早朝定時<入>ともに設定
動作3	日没<入>~夜間定時<切>	日没 入 夜間定時 切	夜間定時<切>のみ設定
動作4	早朝定時<入>~日出<切>	早朝定時 入 日出 切	早朝定時<入>のみ設定

●設定例

動作1	設定は不要です	
動作2 例 日 没<入> 21:00<切> 4:00<入> 日 出<切>	①  夜間定時<切>を 21時に設定	②  早朝定時<入>を 4時に設定
動作3 例 日 没<入> 22:00<切>	 夜間定時<切>を 22時に設定	
動作4 例 4:30<入> 日 出<切>	 早朝定時<入>を 4時30分に設定	

6-3 日没・日出制御調整時間の設定機能

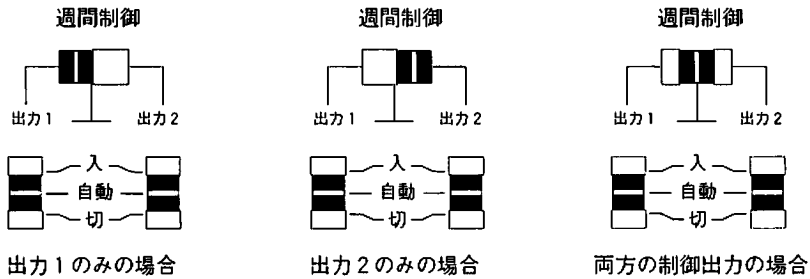
- 日没および日出時刻に対して早くあるいは遅く制御したい場合に日没および日出時刻それぞれに±90分の調整時間が1分単位で設定できます。



※図中の日没、日出曲線は例示であり、実際とは異なります。

6-4 週間制御機能

- 1週間の内、負荷を自動で制御させる曜日と制御させない [全日<切>] の曜日を設定できます。
- 週間制御は出力1か出力2のいずれか一方または両方を制御するかの選択ができます。



注1) ソーラー制御は当日の日没<入>から翌日の日没<入>までを1日として制御しますので週間制御が「OFF」になっている曜日の翌日の日出<切>時刻まで<切>状態となります。

2) 週間制御機能によって出力1、出力2を異なる曜日に「OFF」することはできません。

例. 週間制御の設定により、日曜日と水曜日を「OFF」にする場合

曜 日		日	月	火	水	木	金	土
週間制御		OFF	ON	ON	OFF	ON	ON	ON
ソ ー ラ ー 制 御	日没<入>~日出<切>	■	■	■	■	■	■	■
	日没<入>~夜間定時<切>	■	■	■	■	■	■	■
	早朝定時<入>~日出<切>	■	■	■	■	■	■	■
	日没<入>~夜間定時<切>	■	■	■	■	■	■	■
早朝定時<入>~日出<切>		■	■	■	■	■	■	■

6-5 手動制御機能

- 出力1、出力2の各回路ごとに負荷を手動で<入><切>できます。

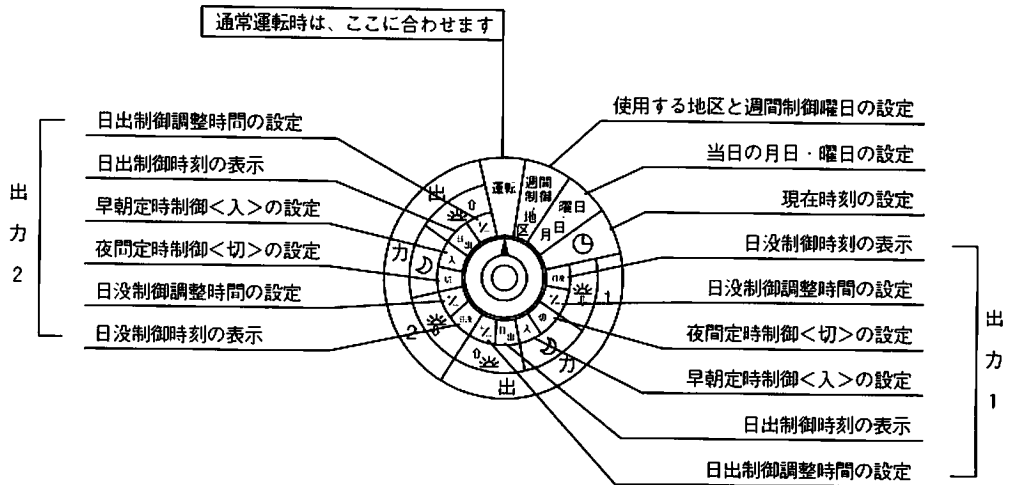
6-6 設定時の制御と自動復帰機能

- 設定操作中は制御は変化せず、ロータリースイッチを『運転』モードに戻した時点から設定された制御が実行されます。
- 『運転』モード以外の各設定モードにおいて1分以上スイッチ操作が行わなかった場合、表示はそのままですが、自動的に設定された制御を実行します。

7 設定

7-1 設定方法

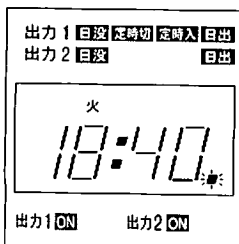
- ロータリースイッチの位置を設定する項目に合わせ、○印箇所の設定スイッチを押してください。



設定スイッチ			ロータリースイッチの位置															
ソナー		設定	設定			出力1						出力2						
時	+/ -	月・時	地区	月日	曜日	☀	☾	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀		
分	○	地区	週間	月	時	日没	+	切	入	日出	+	日没	+	切	入	日出	+	
消去	○	日・分	入/切	日	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
	○	0秒	曜日	曜日	0秒	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去	消去

- 設定スイッチは、2秒以上押しつづけると早送りになります。
 - ロータリースイッチの位置にかかわらず制御を行ないますが、誤設定する恐れがありますので、通常運転時は、ロータリースイッチを『運転』の位置に合わせてください。
- 表示部には、現在時刻、曜日、制御内容と制御状態が表示されます。

(表示部)

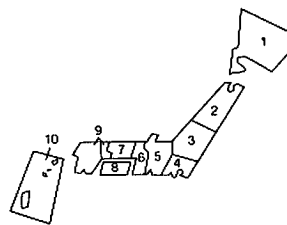
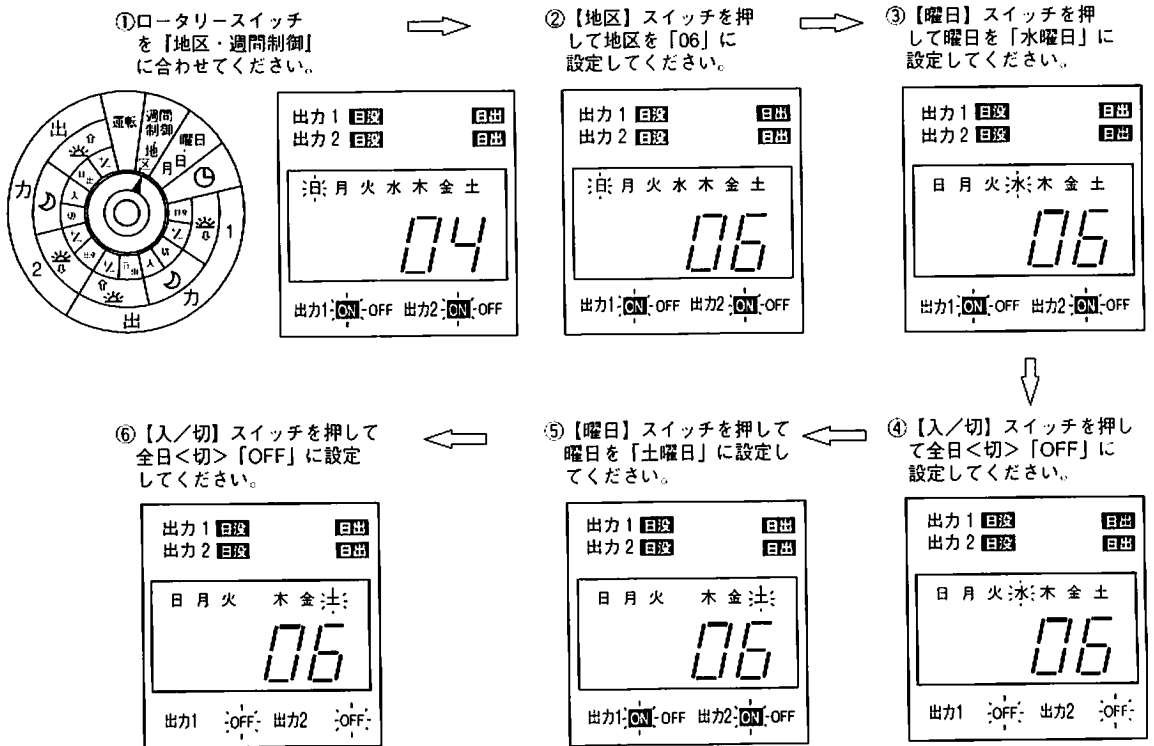


LCDが1秒ごとに点滅し、時計が動作していることを示します。
(⋮は点滅を表わします。)

7-2 使用地区と週間制御の設定

- 出荷時には関東地区に設定されていますのでご使用になる地区にあわせください。
- 1週間の内制御させる日(自動制御する日)、制御させない日(全日<切>の日)を各曜日毎に設定できます。

<例：近畿地区で水曜日と土曜日を「OFF」に設定する場合>



No.	地区
01	北海道
02	奥羽
03	東北
04	関東
05	中部・北陸
06	近畿
07	中国
08	四国
09	九州・中国一部
10	沖縄

注1) ∷は点滅を表わし設定内容を表わします。

2) 出力動作表示は、動作状態によって異なる場合があります。

3) 週間制御で「OFF」に設定された曜日の表示は消灯します。

7-3 日付の設定

- 月・日・曜日はあらかじめ設定されていますが、リセット操作を行った場合やうるう年があった場合には次の操作により再設定してください。

<例：10月27日金曜日に設定する場合>

①ロータリースイッチを「月日・曜日」に合わせてください。

②【月】スイッチを押して月を「10」に設定してください。

③【日】スイッチを押して日を「27」に設定してください。

④【曜日】スイッチを押して曜日を「金曜」に設定してください。

The diagram illustrates the process of setting the date. It starts with a rotary switch diagram where the '月日・曜日' (Month/Day/Day of Week) position is selected. The first LCD screen shows '1.01' with '出力1 日没' and '出力2 日没' indicators. The second screen shows '10.01' after setting the month to 10. The third screen shows '10.27' after setting the day to 27. The final screen shows '10.27' with '金' (Friday) above the date, indicating the day of the week is also set. Below each screen are indicators for '出力1 OFF' and '出力2 OFF'.

7-4 時刻の設定

- 時刻はあらかじめ設定されていますが、リセット操作を行った場合や合わせ直したい場合には次の操作により再設定をしてください。

<例：11時37分に設定する場合>

①ロータリースイッチを「時」に合わせてください。

②【時】スイッチを押して時を「11」に設定してください。

③【分】スイッチを押して分を「37」に設定してください。

The diagram illustrates the process of setting the time. It starts with a rotary switch diagram where the '時' (Hour) position is selected. The first LCD screen shows '12:00' with '出力1 日没' and '出力2 日没' indicators. The second screen shows '11:00' after setting the hour to 11. The third screen shows '11:37' after setting the minutes to 37. Below each screen are indicators for '出力1 OFF' and '出力2 OFF'.

注1) 時報に合わせて【0秒】スイッチを押すと、その時点で0秒からスタートします。

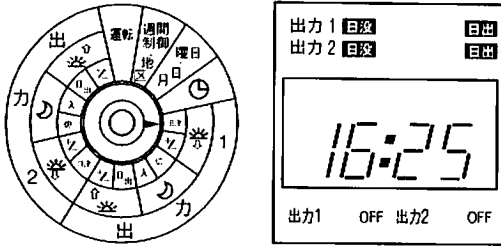
2) ロータリースイッチを「時」の位置にしたままの場合、時計機能は働いていますが、表示は変わりません。

7-5 日没制御<入>時刻の確認

- 当日の日没制御<入>時刻が表示されます。
- 日没制御調整時間が設定されている場合にはそれを含めた時刻が表示されます。

<例：近畿地区で10月27日に日没制御調整時間が-45分の場合>

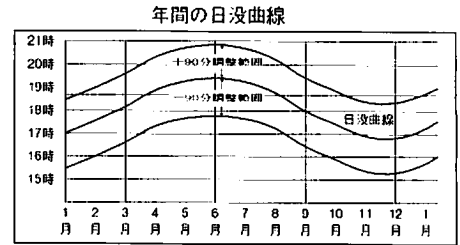
①ロータリースイッチを「日没」に合わせてください。



7-6 日没制御調整時間の設定

- 日没時刻より早くまたは遅く負荷を<入>にする場合に“+/-”“分”を設定してください。

- +：実際の日没時刻より遅くなります。
（“+”の表示はされません）
- ：実際の日没時刻より早くなります。
（“-”の表示がされます）



※図中の日没曲線は例示であり、実際とは異なります。

- 設定は1分単位で±90分まで可能です。
- 設定された調整時間を“00”に戻す時は、設定スイッチの【消去】スイッチを押してください。

<例：日没時刻より45分早く制御する場合>

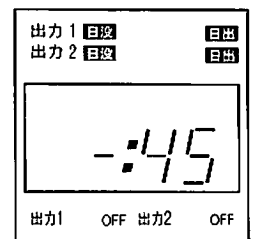
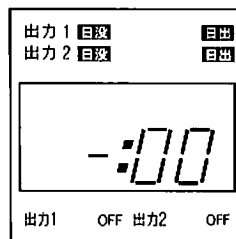
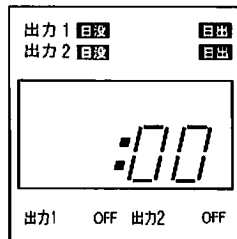
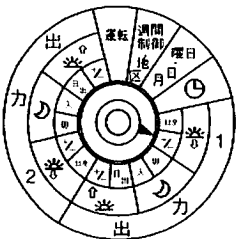
①ロータリースイッチを日没の左隣にある「+/-」に合わせてください。



②【+/-】スイッチを押して“-”（早く制御する場合）に設定してください。



③【分】スイッチを押して分を「45」に設定してください。

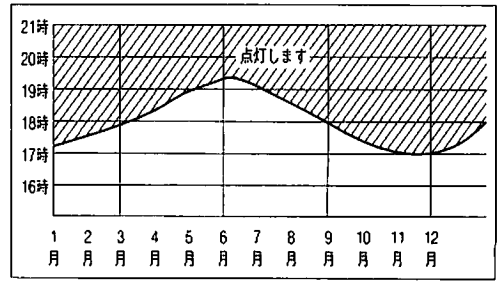


7-7 夜間定時<切>時刻の設定



日没制御時刻が夜間定時制御<切>時刻より遅い時刻になった場合は日没制御時刻になっても<入>になりません。

- 出力回路を、日没に<入>にして、夜間の定時刻に<切>にする場合に、その“時”“分”を設定してください。
- 設定を解除する場合は、設定スイッチの【消去】スイッチを押してください。

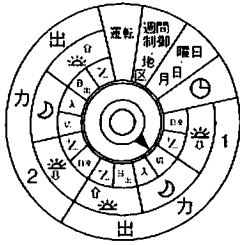


※図中の日没曲線は例示であり、実際とは異なります。

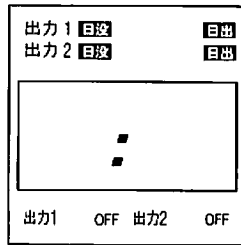
<例：22時30分に<切>にする場合>



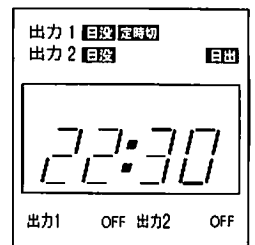
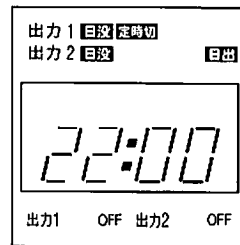
①ロータリースイッチを「切」に合わせてください。



②【時】スイッチを押して時を「22」に設定してください。



③【分】スイッチを押して分を「30」に設定してください。

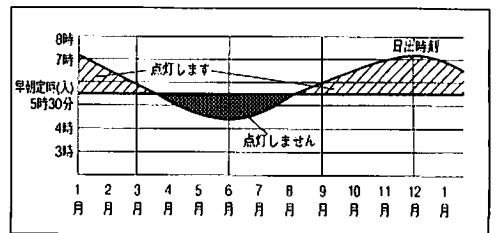


7-8 早朝定時<入>時刻の設定



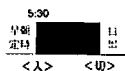
日没制御時刻が早朝定時制御<入>時刻より早い時刻になった場合は早朝定時制御時刻になっても<入>になりません。

- 出力回路を、早朝の定時刻に<入>にして日出に<切>にする場合に、その“時”“分”を設定します。
- 設定を解除する場合は、設定スイッチの【消去】スイッチを押してください。

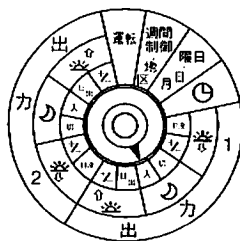


※図中の日出曲線は例示であり、実際とは異なります。

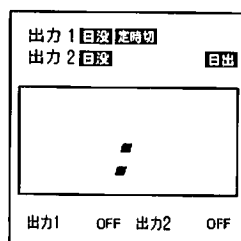
<例：5時30分に<入>にする場合>



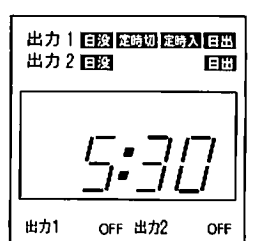
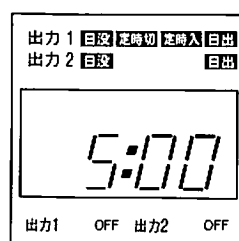
①ロータリースイッチを「入」に合わせてください。



②【時】スイッチを押して時を「5」に設定してください。



③【分】スイッチを押して分を「30」に設定してください。





施工注意

定時制御機能ご使用に際しての注意事項

1. 早朝定時<入>・夜間定時<切>の時刻を、下表の範囲外で設定した場合、日没<入>、早朝定時<入>動作を行わない期間が生じます。

No.	地区	時刻設定範囲	No.	地区	時刻設定範囲
01	北海道	19:19~3:54	06	近畿	19:16~4:43
02	奥羽	19:08~4:06	07	中国	19:28~4:50
03	東北	19:07~4:14	08	四国	19:21~4:54
04	関東	19:02~4:23	09	九州・中国一部	19:30~5:07
05	中部・北陸	19:13~4:32	10	沖縄	19:27~5:35

2. 日没制御調整時間・日出制御調整時間を設定した場合は、上表の「時刻設定範囲」が変わります。

例1：関東地区（No.04）で、日没制御調整時間を「+10分」に設定した場合
 ・時刻設定範囲 19:12~4:23

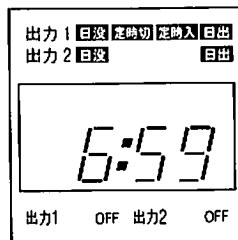
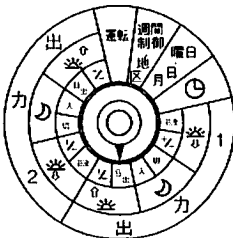
例2：関東地区（No.04）で、日出制御調整時間を「-15分」に設定した場合
 ・時刻設定範囲 19:02~4:08

7-9 日出制御<切>時刻の確認

- 当日の日出制御<切>時刻が表示されます。
- 日出制御調整時間が設定されている場合にはそれを含めた時刻が表示されます。

<例：近畿地区で10月27日に日出制御調整時間が+45分の場合>

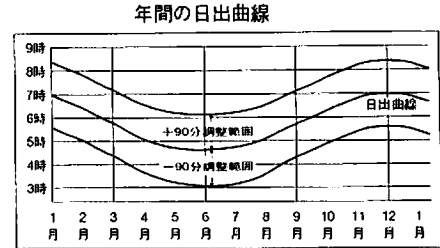
- ①ロータリースイッチを「日出」に合わせてください。



7-10 日出制御調整時間の設定

●日出時刻より早くまたは遅く負荷を<切>にする場合“+/-”“分”を設定してください。

- + : 実際の日出時刻より遅くなります。
(“+”の表示はされません)
- : 実際の日出時刻より早くなります
(“-”の表示がされます)



※図中の日出曲線は例示であり、実際とは異なります。

- 設定は1分単位で±90分まで可能です。
- 設定された調整時間を“00”に戻す時は、設定スイッチの【消去】スイッチを押してください。

<例：日出時刻より45分遅くする場合>

①ロータリースイッチを日出の左隣にある【+/-】に合わせてください。

②【分】スイッチを押して分を「45」に設定してください。

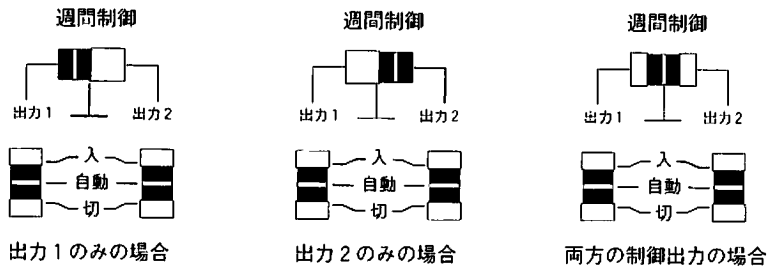
注1) 分表示の前に「-」が表示されている場合は【+/-】スイッチを押して「-」を消してください。

2) 早くする場合には【+/-】スイッチを押して「-」を設定してください。

☆出力2の設定を行う場合には、14頁の「7-5 日没制御<入>時刻の確認」からの操作と同様になります。

7-11 週間制御の選択

- 7-2 項で設定した週間制御で出力1か出力2、いずれか一方または両方の出力を制御するかを選択してください。



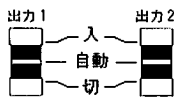
7-12 手動操作スイッチ

○プログラムの状態に関係なく任意にそれぞれの出力毎に手動で負荷の<入>、<切>が行えます。

- 負荷を<入>にする場合は、スライドスイッチを<入>側に、<切>にするときは<切>側にしてください。
- 通常プログラムどおりに運転する場合には<自動>の位置にしておきます。
- 手動操作スイッチを<入>または<切>から<自動>の位置の戻した場合には、その時点からただちに設定プログラムに従って制御を行います。

例1. 両方とも自動運転の場合

スライドスイッチを「自動」にします。



例2. 出力1のみ手動で「入」にする場合

「出力1」のスライドスイッチを「入」にします。



例3. 出力1のみ手動で「切」にする場合

「出力1」のスライドスイッチを「切」にします。



7-13 リセットスイッチ



導電物（金属棒、クリップ、シャープペンの芯など）の先でリセットボタンを押さないでください。感電、火災などの事故や本体の故障の原因となります。

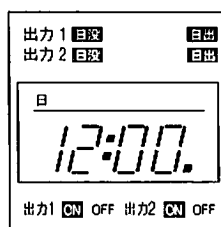
道具確認

- 万一、異常な内容が表示された場合には細い棒状のものでリセットスイッチを押してください。すべての設定が消去され、初期状態に戻ります。（表示はロータリースイッチで指定されたものを表示します。）

リセット直後



運転モードでの初期状態



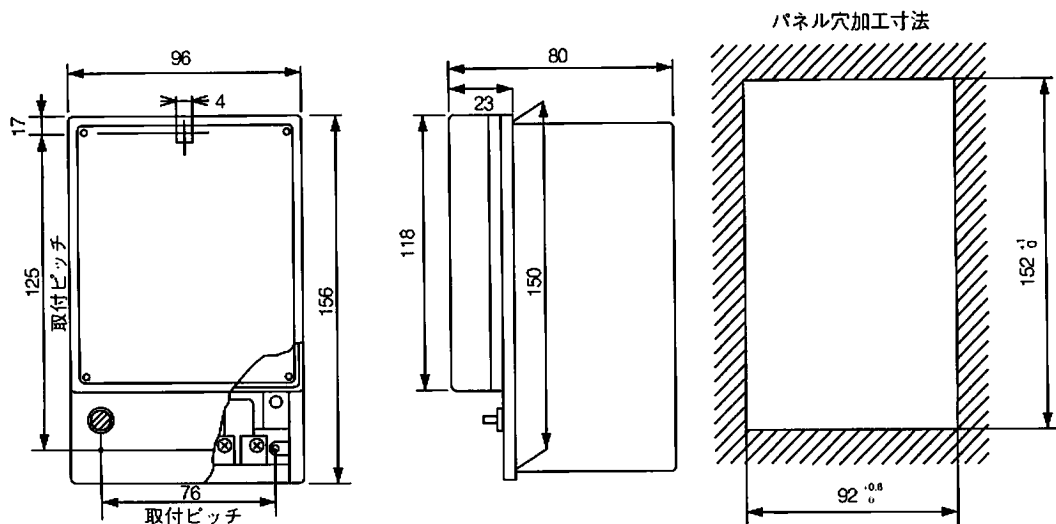
初期状態では次のように設定されています。

1月1日 日曜日
12:00 地区04
週間制御 全曜日 ON

出力は両方とも「OFF」
(ただし手動スイッチが「入」の場合は「ON」)
その他は設定されていません。

(注) リセットスイッチを押すと時計は止まった状態となりますので、時刻合わせを行ってください。

8 外形寸法図



9 停電補償について

○停電補償は、内蔵チリウム電池により、停電時間 10 年間 (25℃において) の長期に渡ります。

①停電中の動作

- 表示は消灯します。
- 出力回路は<切>の状態になります。
- 時計機能は動作しています。
- 設定プログラムは保護されています。

②復電時の動作

- 自動的に、停電前に設定されているプログラムに従って動作します。

10 構成

- ①本体
- ②付属品
 - 埋込取付用金具 1 個
 - 取付ねじ (サムスクリュー) 2 本
 - 木ねじ 3 本
- ③添付書類
 - 取扱説明書 (1 部)

11 仕様

形名	TYE-2WSC		
制御方式	ソーラー制御 (日没・日出の自動修正)		
週間制御	有		
電源	定格電圧	AC100V・200V 共用 (AC80-240V)	
	周波数	50/60Hz 共用	
	消費電力	3VA (200V時)	
時計	時刻表示	24時間制 (0時00分~23時59分)	
	精度	月差±15秒以内 (周囲温度25℃のとき)	
プログラム機能	使用地区設定	全国10地区より選択	
	カレンダー・時刻設定	月・日・曜日・時・分・0秒合わせ	
	調整時間	日没・日出時刻に対して各±90分 (最小設定単位1分)	
	ステップ数	各出力毎に……定時“切”“入”各1ステップ (日没~日出時刻内)	
出力部	出力回路数	独立2回路	
	出力方式	無電圧a接点	
	容量	抵抗負荷	AC250V 30A以下 DC30V 30A以下 (DC12V 100mA以上)
		誘導負荷	AC250V 10A以下 (COSφ=0.7)
		モーター負荷	100V 800W 200V 1600W
停電保証時間	10年間、リチウム電池方式 (電池寿命10年)		
使用温度・湿度範囲	-10℃~50℃、85%RH以下		
質量	790g		
外形寸法	96 (W) × 156 (H) × 80 (D)		
取付方法	表面取付・埋込取付兼用		

参考・直接制御できる照明器具の灯数



注意 ・直接制御できる照明器具の灯数は制御する機器の特性等により異なります。
下記の表は目安としてご使用ください。

・水銀灯 [高力率/低力率]

	100W	250W	300W	400W	500W	600W	700W
100V	10/5灯	4/2灯	3/1灯	2/1灯	2/1灯	1/0灯	1/0灯
200V	20/10灯	8/4灯	7/2灯	5/2灯	4/2灯	3/1灯	2/1灯

・蛍光灯 [高力率/低力率]

	10W	20W	30W	40W
100V	80/40灯	40/20灯	26/13灯	20/10灯
200V	-	-	-	40/20灯

・白熱灯

	40W	60W	100W	200W	300W	400W
100V	25灯	16灯	10灯	5灯	3灯	2灯

12 保証期間

納入品の保証期間は、ご注文のご指定場所に納入後1年といたします。



お願い

記載内容は、設計変更その他の理由により、ご連絡申し上げることなく変更させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

ご不明な点は下記へお問い合わせください。

大崎電気工業株式会社	取扱店
本 社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-2-7 システム・機器部 営業課 電話 (03) 3443-7177 FAX (03) 3443-0265	
札幌 営業所 電話 (011) 251-6622 FAX (011) 210-0258	
仙台 営業所 電話 (022) 223-3747 FAX (022) 223-8159	
北関東 営業所 電話 (048) 653-5901 FAX (048) 660-3599	
大阪 営業所 電話 (06) 6373-2556 FAX (06) 6375-0681	
広島 営業所 電話 (082) 243-1611 FAX (082) 243-9039	
沖縄 営業所 電話 (098) 832-7406 FAX (098) 836-8655	